

須賀川の未来へ10の質問

2月3日、「中学生による模擬議会」を開催。各学校の代表者が議員となり、自分たちの思いを込めた質問をしました。中学生議員の皆さんは、議会を体験することで市の施策やまちづくりに関心を深め、議会や政治の仕組みを学びました。質問と市の答弁の概要は、次のページのとおりです。



市のまちづくりなどを質問した中学生議員の皆さん

●中学生議員名簿（敬称略）

番号	氏名	学年	学校	番号	氏名	学年	学校
1	みづら 三浦 博翔	2	第一中	13	ともひと 水野 友仁	8	稲田学園
2	おわたけ 大竹 咲羽	2		14	いわさき 岩崎 由佳子	8	
3	あおやぎ 青柳 匡咲	2		15	くまだ 熊田 花楓	2	小塩江中
4	すだ 須田 菜月	2	第二中	16	さぐら 相楽 羽咲	2	
5	よしむら 吉村 彩乃	2		17	すずき 鈴木 美優	2	仁井田中
6	おかざき 岡崎 陸斗	1		18	あいほら 相原 彩乃	2	
7	とかし 戸梶 璃音	2	第三中	19	わかまつ 若松 真央	2	大東中
8	いわたに 岩谷 宗英	2		20	おぎの 荻野 結加	2	
9	のざわ 野沢 嶺	1		21	ふじた 藤田 琥空	2	長沼中
10	えびはら 海老原 和奏	2	西袋中	22	そえた 添田 羽琉	2	
11	いそがい 磯貝 莉瑠	2		23	ましこ 増子 真浩	2	岩瀬中
12	なりた 成田 爽良	1		24	もり森 春陽	2	



市の答弁を真剣に聴き入る中学生議員の皆さん



第一中
三浦 博翔 さん



第二中
須田 菜月 さん



第三中
戸梶 璃音 さん



西袋中
海老原 和奏 さん

tetteの利用について

Q tetteの現在の利用状況はどうなっていますか。

A オープンから1年間の施設全体の来館者数は、66万3496人、月平均5万5291人となっています。

図書館をはじめ、こどもセンター、円谷英二ミュージアム、貸ルーム、学習ルームなど、それぞれの目的に合わせ、利用されています。

Q 今後、どんな利用をしてくのが理想ですか。

A いろいろな人との出会いや交流が生まれ、様々な知識や情報にも触れることができる、家でも学校でも職場でもない「みんなの居場所づくり」を目指しています。市民の皆さんには、tetteを自分たちの施設として、育ててほしいと思います。

台風の農業被害と支援について

Q 台風19号による農作物被害の状況を教えてください。

A 昨年12月末時点で、農作物全体の冠水面積が、約210ヘクタール、被害金額は約2億7000万円となっています。

また、農道や林道、農業用水路などの農業施設は、約19億2700万円の被害となっています。

Q 被災農家に対する今後の支援をどのように進めていきますか。

A 被災された農家の皆さんが、農業を続ける意欲を失わずに1日も早く経営再建ができるよう、国や県の災害復旧事業や、国の「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」、市の補助事業を活用して、被災状況に応じた支援を速やかに行っていく考えです。

まちづくりについて

Q 須賀川駅周辺の再開発計画はどのようなものですか。

A 須賀川駅周辺のまちの再生的ため、駅の西側と東側をつなぐ東西自由連絡通路、新たに整備する駅西側の広場、駅東側の既存駅舎を活用した観光交流センターを計画しています。併せて、国道4号から駅西地区までの幹線道路と周辺道路などを整備する予定です。

Q 駅周辺の再開発で、どのような効果が期待されますか。

A 駅利用者の利便性の向上と、地域とのつながりを促進する効果が期待できます。また、交通混雑の緩和や歩行者などが安全安心に通行できるような整備を進め、人が集い、新しい店舗が進出したくなる、魅力的なまちづくりができると思っています。

休日夜間急病診療所について

Q 休日夜間急病診療所の現状や課題を教えてください。

A 受診者数は、平成28年度が5737人、平成29年度が4816人、平成30年度が4513人と減少傾向で推移しています。なお、診療所には、構成市町村内で開業している医師が従事していますが、医師の不足と高齢化が課題となっています。

Q インフルエンザなどが流行する時期は、どのように対応していますか。

A 1月から3月は、受診者数に応じて医師、看護師、事務員をそれぞれ1人増員した各2人体制で対応しています。また、感染症の疑いがある人の待合室を分離し、感染拡大の防止を図っています。

（次ページに続く）



高齢者の交通事故対策について

Q 高齢者の交通事故の防止対策について教えてください。

A 須賀川警察署や関係機関と連携し、街頭啓発キャンペーンなどを実施し、交通事故防止に対する意識高揚を図っています。

また、地区交通安全協会と連携し、夜光反射材などを配布し、夜間の交通事故の防止に努めています。

さらに、交通安全教育専門員の協力で、老人クラブなどを対象とした交通安全教室なども行っています。

Q 運転免許を返納した人へどのような支援・対応をしていますか。

A 市内循環バスや乗合タクシーの案内、バス時刻表の配布、県タクシー協会による、65歳以上の運転免許返納者に対する運賃料金の割引制度についての情報提供などを行っています。



商業振興について

Q 中心市街地の活性化へどのような支援をしていますか。

A これから出店したい人へ空き店舗の紹介、店舗改修費や広告費などの一部に補助を行うなど、新たな挑戦を支援しています。

また、既存の商店に対しては、ウルトランやボータンなどを活用した商品開発や、商店街が取り組むイベントに対しても支援を行っています。

Q 魅力ある商業施設とは、どのようなものだと考えていますか。また、大規模な商業施設の誘致計画はありますか。

A 魅力の感じ方は年代によってもそれぞれですが、集客力があり、商品購入以外にも飲食や娯楽など様々な体験ができる場所だと考えています。

なお、大規模な商業施設の誘致計画はありません。



学校設備について

Q 市内の小中学校で、どれくらいLED電球が設置されていますか。

A 小学校は校舎に4校、体育館に11校、中学校は校舎に1校、体育館に4校設置しています。

また、特別教室の一部に設置している校舎が小中学校に各1校ずつあります。

Q 今後、白熱電球や水銀灯をLEDに変える計画はありますか。

A 体育館に使用されている水銀灯の製造が中止になることから、順次LED照明への改修が必要と考えています。

また、校舎については、今後の大規模改修などの施設整備と併せて、LED照明への改修を検討していく考えです。



台風による被害と復興について

Q 小作田橋関連の道路や水道施設にはどのような被害がありましたか。

A 道路管理者の福島県によると、橋前後の道路部分が約130メートルにわたり被災し、それに伴い、東部地区へ配水している本管が破断したため、ルートを変更し配水する対応を行いました。

なお、一部地域で水圧が低下する事象が発生したため、給水車による応急給水活動を実施しました。

Q 小作田橋の復旧状況について教えてください。

A 小作田橋が大東地区全体の最重要路線であることから、福島県が1日も早い復旧に努めてきました。

工事は、10月16日に着手し、およそ2カ月で復旧しました。



スポーツ振興について

Q オリンピック関連のイベントは予定されていますか。

A 3月28日にオリンピックの聖火がやってきます。円谷幸吉選手の故郷を全国に発信する絶好の機会であり、市民の皆さんの心に残る聖火リレーとなるよう、皆さんとともに盛り上げていきたいと考えています。

Q スポーツ施設の拡充や整備計画はありますか。

A 日々の点検や計画的な修繕工事などにより維持管理に努めています。しかし、多くのスポーツ施設で老朽化が進み、その維持・更新などが課題となっています。

皆さんが安全・安心にご利用いただけるよう、維持管理に努め、長期的な視点に立って、計画的な施設の整備や再編成などについて検討していく考えです。



観光客増加について

Q 観光客の増加に向けての取り組みを教えてください。

A 「すかがわ市M78光の町」の住民を対象としたトークショーや、ONSENガストロノミーウォーキングなど、ターゲットを絞ったイベントを開催しました。

また、首都圏や友好都市などで、観光・物産展を開催し、市の魅力を全国にアピールしています。

Q 今後、外国人観光客を増やすための計画はありますか。

A 観光情報誌「まっぶる須賀川」の英語版を作成するほか、外国人プロガーを招いて、市の情報をSNSなどで発信し、外国人旅行者の増加と受入体制の整備に取り組んでいます。

また、今後策定する「市観光振興アクションプラン」に基づき、効果的なインバウンド対策に取り組みます。



休憩中は緊張から開放されてほっと一息

中学生議員の声

▼議会の緊張した雰囲気を経験することができ、また、普段疑問に思っていたことが解決できた。

▼今まで知らなかったことを知ることができた。市をより良くするため、自分にできること、やるべきことをやっていきたい。

▼自分たちが住んでいる市の取り組みについて知ることができて、本当に良かった。今回の経験を家族や級友と共有したい。

▼市の課題を知り、若い世代の自分たちだからこそのことに積極的

この経験を今後の学校生活へ

市議会議長 五十嵐 伸

実際の市議会と遜色のない、立派な態度・質問でした。

中学生の皆さんも緊張したと思いますが、答弁側も緊張のせいと言い間違いがあり、答弁を訂正する光景がありました。それだけこの模擬議会に真剣に取り組んでいた証でもあります。議会では、間違いがあった場合はそれを認め、速やかに正確なことを伝えることが大切です。これは、普段の生活でも大事なことです。今日の経験をぜひ、今後の学校生活に生かしてほしいと思います。

より良い市へ、ともに歩みましょう

須賀川市長 橋本 克也

どの質問もすばらしく、中学生が感じている市の課題を教えてくださいました。

東日本大震災から9年、復旧・復興を市民とともに進めてきたところで、昨年のも水害となりました。今回も市民一丸となって、痛みを共感・共有し、ワンチームとなって乗り越えていければ、さらに良いまじになれると信じています。

中学生の皆さんも、誰かが困っているときは声を掛け、励ます勇気を持ち、今回の経験をきっかけに、より良い市となるよう、ともに歩んでいきましょう。

にに取り組んでいきたい。

▼自分たちもまちづくりに取り組んでいこうと改めて思った。

☎ 学校教育課 ☎ (88) 9168